

平成二十年度 夏季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「夏」

期間 平成二十年五月一日～七月末

投句数 二、九九七句

特選三句

天

谷戸奥のここにも一寺ほととぎす

東京都町田市 竹内 弘

地

沈めある鉢より伸びて蓮浮葉

神奈川県横浜市旭区 柳沢 栄蔵

人

物書きの凭れる壁の夜の秋

神奈川県横浜市栄区 葭谷 健一

入選句

一般の部

開山の祖師に捧ぐるゆすらうめ

神奈川県鎌倉市

岡田 昭

鎌倉にしたたるみどり栄西忌

神奈川県横浜市旭区

志摩 あき

鎌倉や沖まで晴れて鯉幟

神奈川県横浜市青葉区

山下省三

山若葉書院静まる坐禅会

神奈川県横浜市青葉区

寺橋正光

就中鮮やかなりし白牡丹

神奈川県逗子市

佐藤信子

青梅の頃もまたよし瑞泉寺

神奈川県藤沢市

亀井 浩

本宮へ階ほそき著莪の花

神奈川県茅ヶ崎市

宮沢 進

方丈の四方に風抜け夏に入る

神奈川県横浜市港南区

雑賀義久

蝉時雨八幡宮の雅楽かな

神奈川県鎌倉市

樋口嘉代

弁天を拝し泉に銭洗ふ

神奈川県横浜市栄区

山田知沙子

一番星渚涼しき風のあり

神奈川県平塚市

小野寺信雄

夏萩の仄かな紅や海蔵寺

神奈川県鎌倉市

萩野英利

あじさゝみや山から海へ抜ける道

埼玉県川越市

二宮澄子

葉桜の力強きのゆるぎなき

神奈川県鎌倉市

山内愛子

海ありて山ありて古都風薫る

大阪府豊中市

安藤知明

(順不同)

入選句

子供の部

鎌倉はあじさいきれいすみたいな

神奈川県茅ヶ崎市

竹内梨夏

鯉のぼり夕日を背にし泳いでた

千葉県市原市

唐鎌歩美

みわたすときれいなみどりあおいうみ

東京都品川区

千葉玲奈

梅雨入りのぬれた大仏悲しそう

群馬県伊勢崎市

岸美里

ちちのてがぼくのてをひくなつまつり

千葉県君津市

武田大地

波の音暑さわすれる由比ヶ浜

神奈川県相模原市

和田栞

大仏のまなざし深き夏の旅

東京都中野区

横江亮

新緑の中にどうどうたる仏

東京都渋谷区

観世清誉

いにしえの栄華を語る青葉かな

神奈川県横浜市神奈川区

安井文哉

大仏の手の上歩くかたつむり

埼玉県狭山市

島峯美和子

よりともがずっとみつめるなつのそら

東京都多摩市

風間 優

げんぺいのたたかいみてたあめんぼう

千葉県市川市

田上夏欧

えんかくじかねつきどうとかきごおり

東京都目黒区

木村あり彩

頼朝と青葉の中でひと休み

神奈川県横浜市栄区

川原柚実

鎌倉の薄暑の中をかけぬける

東京都世田谷区

高嶋建佑

(順不同)